

高校生のプレゼンテーション能力育成の方法に関する一考察

羽衣学園中・高等学校教諭 米田 謙三
kenzoo@cd5.so-net.ne.jp

1. はじめに

最近、情報機器の学校への普及が進んだ結果として、プレゼンテーションツールを使って調べた内容を発表する授業が「総合的な学習の時間」や「情報」に関連した授業で多く実践されています。

しかし多くの場合、生徒たちは発表時に原稿を読んだり丸暗記したりするなど、観衆に対して真に語りかけるようなプレゼンテーションのレベルには到達していない場合が多いという声が聞かれます。機器操作のスキルと発表経験の少なさといった問題が一番であると考えられます。しかしそれ以上に、発表するテーマ選択や選んだテーマの掘り下げが十分できていないことに起因するケースが多いのではないかと私たちは考えました。

そこで、自分たちが本当に関心のあるテーマをどのようにして見つけさせればいいのか、調査を進めるにつれ一層興味がわいてくる方法、またいろいろな問題へのアプローチの仕方についての指導方法を模索したいと考えたのです。

このプロジェクトは、情報機器を活用することでコミュニケーション能力や表現力の育成方法を一段と高める指導法を模索し、国際化と情報化に対応できる生徒の育成を図ることを目的として立ち上げました。

具体的な目標として2つ掲げました。①「ものの見方には多様性があること」に興味を持たせる(様々な分野のエキスパートに触れさせる)。②論理的思考の訓練(話し合いや文章表現の訓練をする)。

また一方で、以上の取り組みを通じて、教員側もいかに自分のプレゼンテーション能力を高めて

いくことができるか、コミュニケーションのレベルを上げられるかを考察しています。

第一回セッション

「何をするためにここに集まったの？」

2004年4月24日(土) 2時～5時

2. 研究の方法(2004年)

導入：ホームルームティーチャーから「生徒も教師も、言われたことにはノーといわないようにしましょう」でスタートしました。

セッションⅠ：「たまたま買い物してきたものを使って30秒間のコマーシャルをつくろう！」

歌あり、ものまねあり、コントあり……。対戦形式で実施しました。

セッションⅡ：「学校自慢をしましょう。

1分間！先生も同様にしてもらいます」

教員が1人コーディネーターとして入り、チームワークを整えることを少し補助しました。コンピュータもありませんでしたので、紙を効果的に提示したり歌を歌ったりするなど、個性のにじみでるものになりました。

セッションⅢ：VBBボード(掲示板)に書き込みます。PC教室に移動し、意見・感想をトピックごとに書き込みました。



生徒の書き込みから

「自分で考えられるだけのオプションをつけたけど、ほかの人の発表を見ると自分には浮かばなかった表現があつてすごいと思った」

教師は生徒たちに見せるために別のボードに書き込んでいきました。

教師の書き込みから

「プレゼン指導は経験がないので前に立たれる先生方の課題の提示やまとめ方は大変参考になりました」

第二回セッション「自己紹介」

2004年5月8日（土）2時～5時

セッションⅠ：「This is Me」

宿題として提示しました。班で1人2分。聞き手は評価項目に従って評価します。後見人を中心に代表を選びます。みんなでブラッシュアップ。太鼓を鳴らしたり踊ったりする生徒もでて活気ぎきました。英語でのプレゼンテーション、CDや本、写真などを提示するものもありました。



セッションⅡ：「プレゼンテーション（自己紹介）」

前にプロジェクタを用意。各発表のあとに後見人が1分間コメントしました。後見人からのコメント、「最初英語ばかりでよくわからず、間が多くて長かったが、まとめ、日本語で字幕を作ってわかりやすくした」



セッションⅢ：VBBボードとまとめ

生徒の書き込みから

「楽しかった。人の話す内容を考えるのもなかなか難しいことがわかった」

「もっと何気なくプレゼンをこなせるようになりたいと思った」

教師の書き込みから

「後見人も含めて固くなっていたのではないか」「恥をすてよう、みんなに貢献しよう」

第三回セッション「しゃべり体験」

2004年6月19日（土）2時～5時

セッションⅠ：「ミニプレゼン」

コンピュータを使った極端な学校紹介を3つ見せました（文字ばかり・写真ばかり・動画）。

セッションⅡ：「5つの場でしゃべり場体験」

先生方にも入ってもらいました。

- ・紙芝居読み聞かせ
- ・警察官道案内
- ・教材販売セールスマン・記者会見の記者と発表者
- ・列車遅れの駅職員の対応

セッションⅢ：VBBボードとまとめ

生徒の書き込みから

「文字のみは、読みづらくて、写真と解説、音楽と動画の方が見やすかったです。動画と解説というのも見てみたかったです」

「すごく照れてあまりうまくしゃべれませんでした。でも楽しかったです」

「私のテーマは緊張感に慣れること。今後はどんなことを聞かれても返せるようにしたい」

教師の書き込みから

「パソコンを使わないプレゼンを改めて体験しました。次回以降も楽しみにしています」

「最近出た研修で、誠に失礼ながら「う～ん、この先生には『要約力』がない」としみじみ感じたことがありました。語りのプレゼンの基本が「要約」ですね。国語の授業に使える、と思いました」

第四回セッション「はずかしがらずにプレゼン」

2004年7月17日（土）2時～5時

セッションⅠ：「5つの場、再度」

生徒2人教師2人を1班とし、相手を困らせる質問をしてもよいことにしました。場数を踏ませ、羞恥心



を捨てさせる、臨機応変に質問内容に対応させる。質問する側も様々なパターン練習をさせることにしました。

セッションⅡ：「4コマプレゼン作成」

「英語教材」を4コマのプレゼンテーションで紹介。パワーポイントの共同作業で発表時間は2分。時間配分・役割分担やデザイン、構成など、プレゼン甲子園のイメージを少し持ちました。

セッションⅢ：VBBボードとまとめ

生徒の書き込みから

「今日は紙芝居2回目だったので、結構緊張せずにできたと思います。おもしろかったです」
 「セールスが今日やった中で一番難しかったです。もっと、丁寧にしゃべれたらよかったです」
 「しゃべるのに慣れてきたとは思いますが、やっぱり大人数を目の前にすると緊張する」
 「短時間にグループで作品を作るのは難しかったです。個人でなら作れたと思う」
 「ちゃんと台詞を作っていなかったからうまく言えなかった……それにお客様に背を向けるのは、商売のタブーであるからして……」

教師の書き込みから

「前回よりは内容について把握した上で取り組めたのでよかったです。各生徒が役割を終えたあとに、もう少し振り返りの時間をとってお互いに意見を言い合えるようにした方がいいように思いました」

「初めて参加させていただきました。お茶のとき、他校の生徒同士も仲良くしていたのがすごくいいと感じました」

第五回セッション「プレゼン甲子園に向けて」

2004年8月29日（日）10時～5時

セッション・ゼロ：「仲良くCOOKING」

みんなで仲良く手打ちパスタ、手打ちそばを楽しみ、親睦の和をひろげました。



セッションⅠ：「夏の思い出」

全員が1分間プレゼンテーションをしました。視線や姿勢も重視しました。個人の話ですがなかなか内容が深く、面白いものが多くありました。みんな聞く姿勢がかわってきました。

セッションⅡ：「プロのプレゼンテーション」

教員が動画を用いてわかりやすくプレゼンテーションをしました。また、JR四国コミュニケーションウェアの「わいわいレコーダー」の担当者より商品のプレゼンテーションをしていただきました。言葉巧みに説明してくれました。さすがでした。

セッションⅢ：「ビジネスアイデアコンテスト」

各学校でいろいろなアイデアを発表しました。フロアからは鋭い質問が飛びましたが、その質問にも動じません。逆にいろいろ返していました。

セッションⅣ：VBBボードとまとめ

生徒の書き込みから

「わいわいレコーダー」すごい！！チャットとかと違って画像もアップできるのはいいと思った。実演してもらってすごくわかりやすかった」

「機械がうまく動かなくても、動揺せずに次を考えることができるのがすごいと思った。また商品のいいところもよく説明できていたと思います」

「淡々としゃべれるようになってる自分にびっくりした」

「沢山あったけどやっぱり「目を見て発表する」っていうことやと思う」

教師の書き込みから

「緊張しながら内容だけを話すプレゼンと、相手を意識したプレゼンがあったと思います。良い悪いではなく、内容の比較もあればよかったかなあと」

「発想の豊かさ、頭の柔らかさに頼もしく思いました。次回のプレゼン甲子園に期待がもてますね」

プレゼン甲子園2004

2004年10月31日（日）11時～5時

上宮高等学校・啓光学園高等学校

向陽台高等学校・大阪信愛女学院高等学校

精華高等学校・プール学院高等学校

羽衣学園高等学校

「1億円を世のため人のために使うなら」

大阪府私学教育情報化研究会会長（大阪国際大和田中・高等学校校長）奥田三郎先生のあいさつで幕開け。「第四回までの基礎学習をベースに、「企画力」「物語性」「構成力（デザイン）」「訴求力」等に優れ、独創的な作品が発表されることを期待しています。これを機に生徒達のコミュニケーション能力向上とともに、各校の生徒や教員間の交流が一層深まることを願っています」

どのチームもまとまりがあり、いろいろ工夫とんだ作品となりました。

終了後の生徒の書き込みを紹介します。

「人に情報、気持ちを伝える手段は全部プレゼンテーションだと思う」

「めっちゃ緊張したあ！！心臓バクバクだけどもめいっばい頑張った☆楽しかったです」

「自分の考えや思いを伝える場所がプレゼンテーションだと思う……」

「このセッションに参加したことがすごい自分の自信になった☆視野も広がったと思う」

「人前で話すことに少しはなれたと思う。毎回緊張するけど、いやな間がなくなった」

「自分ってまだまだかなあ…もっと成長せねば！！」

3. おわりに

いくつかの学校が参加することで、生徒の中に自校の存在（学校の建学の精神や校則といった特徴）を再確認させ、それを自校愛へとつなげることができました。他校の生徒と競争し、また協働することで、学習動機が高まり、自分の存在を確認することにもなりました。特に今まで日本人が苦手としてきた自分の考えをより素直に表現し、聞いている情報の受け手にも共感してもらえる発表能力を身につけさせることがいくらかできました。この目標に教師が学生が企業の方が力を結集させました。そして今までにはない新しい取り組みを成し遂げることができました。

この実践の中で、教師は、改めて今後どのような指導法や教師個人の能力が求められているかといったことも明らかになってきました。

将来的には、学校の枠を取り払ったグループを構成して、自分たちの関心のある事柄についてプレゼンテーションを行うコンテスト等の実施を考えています。勿論進化を続けていかなければなりません……。

詳細はICTプロジェクトのホームページ

<http://www.osaka-sigaku.net/ict/index.htm>

主催 大阪府私学教育情報化研究会

<http://www.osaka-sigaku.net/>